

K120.73

41

8

教育音樂講習會編纂

第八集

新編
教育唱歌集

東京
開成館藏版



教育音樂講習會編纂

第八集

新編
教育唱歌集

東京
開成館藏版

明治

38 8 24

内交

新編 教育唱歌集第八集目次

一 富士登山……………	二	九 春の夜（音楽學校許可）……………	二二
二 いくさの跡……………	五	一〇 一人旅……………	二三
三 四季の雨……………	七	一一 旅の歌……………	二五
四 瀧……………	九	一二 海國の大丈夫……………	二八
五 春の野……………	一一	一三 騎馬旅行……………	三二
六 花の美……………	一三	一四 豊年……………	三五
七 月の瀬……………	一六	一五 祝へわが君を（音楽學校許可）……………	三七
八 漁船……………	一八	一六 秋草（音楽學校許可）……………	三九

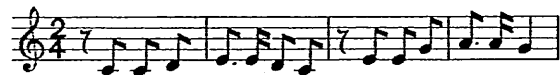
（第八集）

（第八集）

一七 雁……………	四一	二六 鏡が浦驟雨……………	六二
一八 枯野……………	四三		
一九 母の思（音楽學校許可）……………	四五		
二〇 埴生の宿（音楽學校許可）……………	四八		
二一 奈良の都（音楽學校許可）……………	五二		
二二 仰げば尊し（音楽學校許可）……………	五三		
二三 薔薇の花……………	五五		
二四 亡友……………	五七		
二五 七草……………	五九		

目次終

富士登山



| 0 1 1 2 | 3. 3 2 1 | 0 3 3 5 | 6. 6 5 |

(一) カミヨ ナガラノ フジノ タカネ
(二) きのふ みそらに みたる たかれ



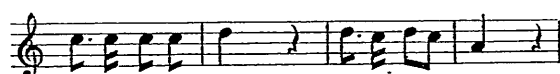
| 0 6 1 6 | 5. 5 3 3 | 0 2 1 2 | 3. 4 5 |

クモニ ソビエテ ナツモ サムシ
いまは ふみつつ のぼる やまぢ



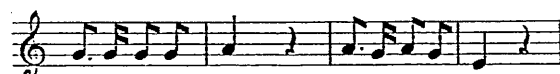
| 0 6 1 6 | 5. 5 3 3 | 0 2 1 2 | 3. 2 1 |

クモニ ソビエテ ナツモ サムシ
いまは ふみつつ のぼる やまぢ



| 1. 1 1 1 | 2 0 | 2. 1 2 1 | 6 0 |

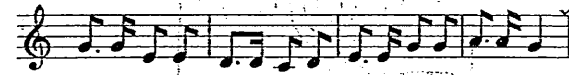
アサソラ チ イロドール
あしもと な なでつーつ



| 5. 5 5 5 | 6 0 | 6. 5 6 5 | 3 0 |

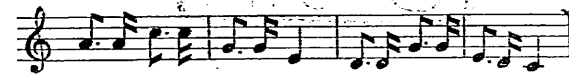
シロタへ ノ ソノハダへ
ゆくくも の ゆかいさよ

富士登山 (つづき)



| 5. 5 3 3 | 2. 2 1 2 | 3. 3 5 5 | 6. 6 5 |

サカサニ エーガク アフギノ オモテ
さがみの やーもし するがの うみも



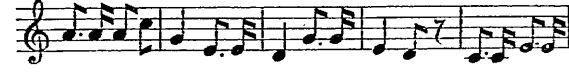
| 6. 6 1. 1 | 5. 5 3 | 2. 2 5. 5 | 3. 2 1 |

ヒラケテ ニホフ ハサスノ ハナカ
ただわが にばに みおろす ころ



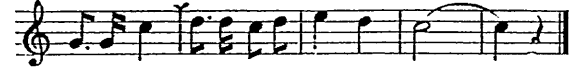
| 2 3 2 1 2 | 3. 4 3 2 3 | 5 6 5 3 5 | 6 5 0 |

ノホーレヨ トーモヨ ヒーノモトノ
きーけや あーれに わーがう たな



| 6. 6 6 1 | 5 3. 3 | 2 5. 5 | 3 2 0 | 1. 1 3. 3 |

ミハシラ トナル コノヤ マニ イザイザ
とーほくら かく こたふ るば じーさん



| 5. 5 1 | 2. 2 1 2 | 3 2 | 1- | 1 0 |

トモヨ クモゲチ ヲケ テー
しーの こだまの ひび きー

富士登山

(一) 神代^{かみよ}ながらの富士^{ふじ}の高嶺^{たかね}、

雲^{くも}に聳^{そび}えて夏^{なつ}もさむし。

雲^{くも}に聳^{そび}えて夏^{なつ}もさむし。

靑空^{あおぞら}を色^{いろ}どる白妙^{しろたへ}のその肌^{はだへ}。

さかさにえがく扇^{あふぎ}のおもて、

ひらけてにほふ蓮^{はちす}の花^{はな}か。

登^{のぼ}れよ、友^{とも}よ、日^ひの本^{もと}の

み柱^{はしら}となるこの山^{やま}に。

いざ、いざ、友^{とも}よ。雲路^{くもぢ}をわけて。」

(第八集)

(第八集)

(二) きのふみそらに見^みたる高嶺^{たかね}、

今^{いま}は踏^ふみつゝ登^{のぼ}る山路^{やまぢ}。

今^{いま}はふみつゝ登^{のぼ}る山路^{やまぢ}。

足下^{あしもと}をなでつゝ行^ゆく雲^{くも}の愉快^{ゆかい}さよ。

相模^{さがみ}の山^{やま}も駿河^{すまがは}の海^{うみ}も、

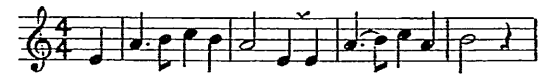
ただわが庭^{には}に見^みおろす心地^{こころぢ}。

きけや、あれに、わが歌^{うた}を

遠^{とほ}く近^{ちか}く答^{こた}ふるは、

十三州^{じゅうさんしゅう}のこだまのひびき。」

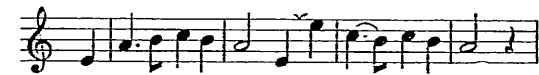
いくさの跡



3 | 6.7 $\dot{1}$ 7 | 6-3 3 | 6.7 $\dot{1}$ 6 | 7-0 |

(一) ヤ ア レ テ ノ コー ル ア ツー ジョー モー

(二) つ つ お と と ほー く き えー ゆ き てー



3 | 6.7 $\dot{1}$ 7 | 6-3 3 | $\dot{1}$.7 $\dot{1}$ 7 | 6-0 |

ミ ダ レ テ チ レー ル ツ ツー ツ ル ギー

し づ か に よ るー は ふ けー て ゆ くー



7 | 7.7 3 6 | $\dot{1}$.7 6 7 | $\dot{1}$.7 $\dot{1}$ 7 $\dot{1}$ 2 | 3-0 |

イ ク サ ノ ア トー チ キ テー ミー レー パー

ふ た す ち み すー ち ほ そー きー ひー のー



3 | $\dot{4}$.3 2 $\dot{1}$ | 7-3 6 | $\dot{1}$.7 6 5 | 6-0 ||

ヒ ハ ハ ヤ ナ チー テ ツ キー シ ロ シー

あ が る は な にー か や まー か げ にー

いくさの跡

(一)

やぶれて残る鐵條網。

みだれて散れる銃つるぎ。

いくさの跡を來て見れば、

日ははや落ちて、月白し。

(二)

つゝ音遠く消えゆきて、

静に夜はふけてゆく。

ふたすぢ、三すぢ、細き火の

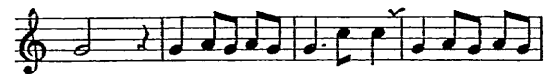
あがるは何か、山かげに。

四季の雨



| 1 3 5 | 5. 6 5 | 3 5 1 | 1. 2 1 | 7 5 6 |

(一) ハ ナ ノ ウ ヘ ニ コ オ レ カ カ ル ハ ル サ
(二) い け の お も に け む り わ た る さ み だ
(三) モ ミ ザ ソ メ シ モ リ ニ ソ ソ ケ ア キ サ
(四) か れ の さ む く ふ る は ふ ゆ の む ら さ



| 5- 0 | 5 6 5 6 5 | 5. 1 1 | 5 6 5 6 5 |

メ フ レ ヤー フ レ ヤ ア シー ター
れ た う 点 せ よ と ふ る もー
メ モ ノー ナー オ モ フ マ ドー ナー
め い け の な し の ゆ め もー



| 5. 1 1 | 1 2 1 7 6 | 5- 0 | 5 1 2 | 1- 0 ||

マ デ モ ハ ラー ハー ラー ホ ロ ホ ロー
う れ し は らー はー らー ほ ろ ほ ろー
ウ チ ハ ラー ハー ラー ホ ロ ホ ロー
さ め て は らー はー らー ほ ろ ほ ろー

四季の雨

(一)

花の上^{はなうへ}にこぼれかゝる春雨^{はるさめ}

(二)

池の面^{いけおもて}にけむり渡る五月雨^{さみだれ}

(三)

田植^{たうえ}せよと降るも、うれし。はらく、ほろく。

(四)

紅葉^{もみぢ}そめし森^{もり}にそゞ秋雨^{あきさめ}
ものを思^{おも}ふ窓^{まど}をうちて、はらく、ほろく。
枯野^{かれの}さむく降るは、冬の村雨^{ふゆのむらさめ}
池^{いけ}のをしのゆめも覺^さめて、はらく、ほろく。

(一) とどろき渡る瀧つせみれば、
 かけたる布か。亂せる絲か。
 とび散る霧は霞の如く
 氷りて、夏も身にしむばかり。

(二) 千尋の谷に雷おちて、
 一度にかへすこだまの響。
 あれ、見よ。瀧のしぶきのうちに、
 夕日は圓き虹をぞえがく。

瀧

瀧



1. 1 7 6 | 5 5 3 0 | 5 3 2 1 | 3 2 2 0 |

(一) トドロキ サタル タキシセ ミレバ
 (二) ちひろの たにに いかづち おちて



1. 1 7 6 | 5 5 3 0 | 5 5 4 2 | 3 2 1 0 |

カケタル ヌノカ ミガセル イトカ
 いちどにかへす こだまの ひびき



4 2 2 3 | 4 4 2 0 | 3 1 6 2 | 5 6 5 0 |

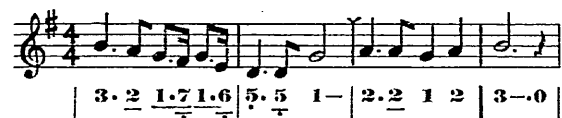
トビチル キリハ アラレノ ゴトク
 あれみよ たきの しぶきの うちに



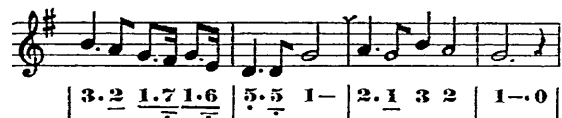
1. 1 7 6 | 5 5 3 0 | 5 5 4 2 | 3 2 1 0 |

コホリテ ナツモ ミニシム バカリ
 ゆふひは まるき にじんぞ えがく

春の野



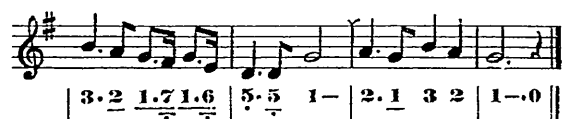
(一) ナタネーノーハナニートブコチョコー
(二) わかくさーもゆるなかのうへー
(三) タンポポーヨメナーツクツクシ-



アチゾーラータカクーナクヒバリー
のどけきーひかげーあみながらー
テカゴニイレテモチカヘルー



イーブレカハラヌタノシサチー
やすらひなればーそよそよとー
ノーベノアセミチオモシロヤー



ウタフーカーハルノーノニイデデー
そでふーくかぜのーこころよさー
アースーモマダコンウチツレデー

春の野

- (一) 菜種の花に飛ぶ胡蝶、青空高く啼く雲雀、
いづれ變らぬ樂しさを歌ふか、春の野に出でて。
(二) わか草もゆる岡の上、長閑けき日影あみながら、
やすらひ居れば、そよくと、袖ふく風の心よさ。
(三) 蒲公英、嫁菜、土筆、手籠に入れて、持ち歸る
野邊の畔道、面白や。明日もまた來ん、打ちつれて。

花の美

5 | 1. 1 7 6 | 5-3 5 | 1. 6 5 4 | 3-0 |

(一) ヒ ト ア ト タ エ シ ノ ヤ マ ニ モー
(二) う つ し て に は に つ ら か へ ばー
(三) ボ タ シ ャ ク ヤ ク キ グー ア ヤ メー

5 | 1. 1 7 6 | 6. 5 5 3 | 2 7 7. 6 | 5-0 |

ト キ チ リ ス レー ズ サ キー ニ ホ フー
さ ら に お ほ きー く う つー く し くー
イ ズ レ ガ ト ラー ヌ ハ ナー ナ ガ ラー

5 | 1. 3 1 6 | 5-3 5 | 1. 3 1 2 | 3-0 |

ハ ナ ノ イ ロ カー ノ ウ ツー ク シ サー
そ だ ち て ひ と の こ る ま でー
シ ゼ ン ノ マ マー ニ サ キー イ デ シー

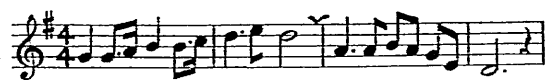
5 | 1. 1 7 6 | 6. 5 5 5 | 6 6 7. 7 | 1-0 ||

お ノ ズ カ ラ ナー ル ス ガー タ ニ テー
な ぐ さ め く るー る も のー お ほ しー
ノ ベ ノ イ ロ カー モ ヲ スー ル ナ ヨー

花の美

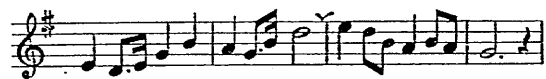
- (一) 人跡たえし野山にも、時を忘れず咲き匂ふ
- (二) 花の色香の美しさ、おのづからなる姿にて。
- (三) うつつして庭に培へば、更に大きく美しく
- 牡丹芍薬菊あやめ、いづれ劣らぬ花ながら、
- 自然の儘に咲きいでし野邊の色香も忘るなよ。

月の瀬



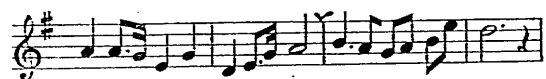
1 1.2 3 3.4 | 5.6 5- | 2.2 3 2 1 6 | 5-0

(一) ヨシノハハルノ サクラガ リー
(二) ゆき-げの-みづも-きのふ-け-ふ-
(三) ムラ-ヨリ-ムラニ-サキ-ツグ-ク-



6 5.6 1 3 | 2 1.3 5- | 6 5 3 2 3 2 | 1-0

タツ-タハ アキ-ノ-モミ-ザガ-リー
うた-ごえ たつ-る-なば-りが-は-
ウメ-ヨリ ウメ-ノ-ユフ-ツキ-ヨ-



2 2.1 6 1 | 5 6.1 2- | 3.2 1 2 3 6 | 5-0

モミ-ザモ ハナ-モ-マダ-シラ-メ-
かな-たこ なた-に-えだ-か-は-す-
ガモ-ヒジ イヅ-ル-ハル-ゴト-ニ-

月の瀬 (つづき)



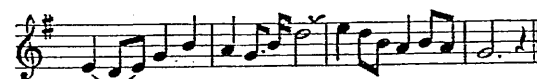
5 6.5 3 2 | 1 5 1- | 2.2 5 3.2 | 1-0

ヨニ-サキ ガクノ-ナモタカ-キ-
ちも-との うめ-の-はなみれ-ば-
ココ-ロカ ナタニ-ユキカヒ-テ-



1 1.2 3 3.4 | 5.6 5- | 2.2 3 2 1 6 | 5-0

ウメ-ハツ-キノセ-ツキユ-キ-ノ-
ほし-のほ-やし-か-しら-く-も-か-
カス-ムカ-イマ-モ-ウルハ-シ-ク-



6 5.6 1 3 | 2 1.3 5- | 6 5 3 2 3 2 | 1-0

ホ-カニ ヒトツノ-ミド-コロ-ゾ-
かな-りぞ そら-に-みち-わた-る-
イ-ガト ヤマトノ-サマ-カガ-ニ-

月の瀬

(一) よしのは春の櫻がり。龍田は秋のもみぢがり。
 紅葉も花もまだしらぬ。世にさきがけの名も高き
 梅は月の瀬。月雪の外にひとつの見どころぞ。
 雪の水もきのふけふ歌ごゑたつる名張川、
 かなたの枝かはす千本の梅の花みれば、
 星の林か白雲か。かをりぞ空に満ちわたる。
 村より村にさきつづく梅より梅の夕月夜。
 おもひぞいづる春毎に、心かなたにゆきかひて、
 かすむか。今も麗しく伊賀と大和の山かげに。」

(第八集)

漁 船

3. 3 2. 1 | 5. 6 1. 2 | 3. 4 5. 6 | 5. 3 2- |
 (一) ササノハ コノハチ ウカブルゴトク
 (二) えものを みたして おきよりかへる

3. 3 2. 1 | 5. 6 1. 2 | 3. 4 5. 3 | 2. 1 1- |
 アマタノ ツリブネ ナミマニ ナラブ
 ふなうた いきまし ろのおと たかし

2. 2 5- | 3. 3 5- | 6. 6 5. 3 | 5. 3 2- |
 サチ ハー アガルー カシコニ ココニ
 いそにー いでてー まつひと あまた

3. 3 2. 1 | 5. 6 1. 2 | 3. 4 5. 3 | 2. 1 1- ||
 ウナバラ ガスミデ ハルカセ ノドカー
 ほかげを のこして ひははやくれぬ

漁船

(一) 笹の葉、木の葉を 浮ぶるごとく、

あまたの釣舟 波間にならぶ。

竿はあがる、かしこに、こゝに。

海原かすみて、春風のどか。

(二) 獲物を満して、沖より歸る

船歌いさまし。櫓の音たかし。

磯にいて、待つ人あまた。

帆影を残して、日ははや暮れぬ。」

春の夜

かすみにきゆるかりがねも、
かすかにひびく笛の音も、

治る御代のしらべにて、
樂しき春の夕暮や。

ともしびとりて、昔の人の

あそびし夜もかりけん。

世はさまざまと思ひしを、

昔も今も、かく咲きにほふ

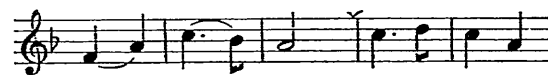
花にはそむく人ぞなき。」

春の夜



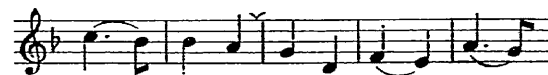
5. 6 | 5 3 | 5. 1 | 1 3 | 2 6 |

カ ス ミ ニ キ ャ ム カ リ
ト モ シ ビ ト リ テ ム カ



1 3 | 5. 1 | 3- | 5. 6 | 5 3 |

ガ ネ モー カ ス カ ニ
シ ノ ヒ ト ノー ア ソ ビ シ



5. 1 | 1 3 | 2 6 | 1 7 | 3. 2 |

ヒ ビ ク フ エ ノー ネー
ヨ ハ モ カ カ リー ケー



1- | 1. 2 | 2 1 | 1 23 | 2 1 |

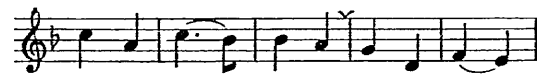
モー チ サ マ ル ミ ヨー ノー
ンー ヨ ハ サ マ ザ マー トー

春の夜 (つづき)



2. 2 | 3 5 | 6 5 | 2- | 5. 6 |

シ ラ ベー ニー テー タ ノ
オ モ ヒー シー ナー ム カ



5 3 | 5. 1 | 1 3 | 2 6 | 1 7 |

シ キ ハー ル ノ ユ フ ケー
シ モ イー マ モ カ ク サ キ



3. 2 | 1- | 1. 7 | 21 71 | 5- |

レー ヤー
ニ ホ フー ハ ナ ニー ハー ソー



5 5 | 6 1 | 3. 2 | 1- | 1- |

ム ク ヒ ト ズ ナ キー

一人旅

(一)

落葉^{おちば}

ふみて、ひとりたどる

秋^{あき}の暮^{くれ}の山道^{やまみち}

鹿^{しか}の聲^{こゑ}は谷^{たに}にひびき、

雨^{あめ}の雲^{くも}は峰^{みね}より。」

(二)

されど望^{のぞみ}胸^{むね}にみてり、

いさを立^たてん望^{のぞみ}は。

明^{あか}き光^{ひかり}われを招^{まね}く。

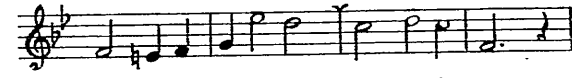
いざやいざやいそがん。」

一人旅



3- 1 6 | 5 1 1- | 2- 1 2 | 3 6 5- |

(一) オー チ バ フ ミ テー ヒートリ タドルー
(二) さー れ ど のぞみ むーれに みてりー



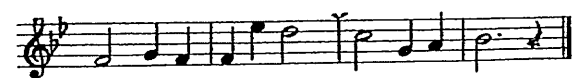
5- 4 1 5 | 6 4 3- | 2- 3 2 | 5- 0 |

アー キノ クレノ ヤ マミ チー
いー さな たてん のぞみ はー



2- 3 2 | 1 6 5- | 3- 1 3 | 6 3 2- |

シー カノ コエ ハー ター ニニ ヒビ キー
あー かき ひか リー わーれを まねくー



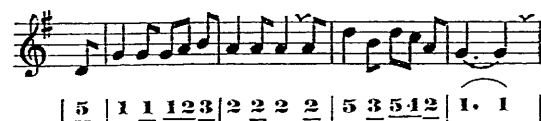
5- 6 5 | 5 1 3- | 2- 6 7 | 1- 0 ||

アー メノ クモ ハー ミー ネ田 リー
いー ざ や いざ やー いーそが んー

旅の歌



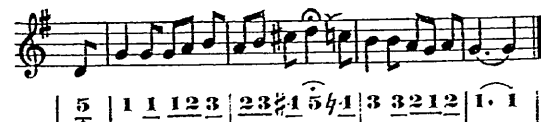
(一) マ ドウツ-ア ラレニユ メハタ-エ テー
(二) あ きかぜ-ふ きしく に はのす-す きー



セ ンリチ-ユ キカフ タ ビノコ-コ ロー
お もかげ-ま ねくも い まはゆ-め ちー



ア ルジニ-ソ カレシマ ドノツ-キ ハー
ま くらに-お ちくる か れのこ-え もー



コ ヨヒモ-エ ガー クカ タケノカ-ゲ ナー
か ぞへて-お もー へば はやもみ-と せー

旅の歌

(一)

窓打つ霰に 夢はたえて、

千里を行きかふ、旅のころ。

あるじに別れし 窓の月、

今宵も晝がくか、竹の影を。

(二)

秋風ふきしく 庭のすゝき

面影まねくも、今は夢路。

枕に落ち来る 鐘のこゑも

かぞへて、おもへば はやも三年。

海國の大丈夫



5 6 7 1 2 2 | 1 2 3 4 5 5 | 5 3 5.3 | 2-0-

- (一) サー カーマク ナー ミーチャー ケア プリデー
 (二) なー みーもー ぐーふーもー くらしほーもー
 (三) ホー シーハー テー ラーシテ ソラニア リー
 (四) そー こーには かー がーやく さんごあ リー



5 6 7 1 2 2 | 1 2 3 4 5 5 | 5 3 5.3 | 2-0-

イー カーレル ナー ミーチャー ツキキリデー
 なーるー れば とーもーよー よきともよー
 ラー シーハ シーメーシテ フネニア リー
 なーみーには うーかーべろ くらあ リー



3 2 1 6 6 | 1 7 6 5 5 | 5 1 5 1 | 2-5 0 |

シャリー ンチ パンー リニ ススムベ シー
 だんー じー うまー れて かいこく のー
 コホー リノ ウミー ノー ナミトテ モー
 ひとーたび あみー なー おろしな ばー

海國の大丈夫 (つづき)



3 2 1 6 6 | 1 7 6 5 5 | 5 1 5 1 | 2-5 0 |

アラタニ セカー イモ ヒラクベ シー
 たみーとー なるーこそ ゆかいな れー
 ヤブールニ ナニー カー カタカラ シー
 すまーんの とみーもー えらるべ しー



5 5 5 5 | 5 5 5 5 | 6-5 1 | 3-2 0 |

ワカカイ コクノー マースラ チーヨ
 ゆげやー ひらげや ひーとの あーと
 ワカカイ コクノー マースラ チーヨ
 たからー つきせぬ うーなげ らーに



3 2 1 6 6 | 1 7 6 5 5 | 2-2 0 2 3 | 1-0-

ジギョーハ ガホー シイ ザー ユケ ヤー
 まだーみぬ くーにーのは てーまでしー
 ホマーレハ トホー シイ ザー ススメー
 はんーとな ひろめやい ざー たみよー

海國の大丈夫

(一) さかまく波を蹴破りて、怒れる波を突き切りて、
車輪を萬里に進むべし。新に世界も開くべし。

わが海國の大丈夫よ。

事業は多し。いざ、行けや。」

(二) 波も颶風も黒潮も、慣るれば友よ。よき友よ。
男兒生れて、海國の民となるこそ愉快なれ。

行けや。開けや。人のあと

まだ見ぬ國のはてまでも。」

(三) 星は照して空にあり。羅針は示して船にあり。
氷の海の波とても、破るに、何か難からん。

わが海國の大丈夫よ。

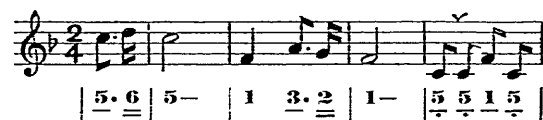
名譽は遠し。いざ、進め。」

(四) 底にはかがやく珊瑚あり。波には浮べる鯨あり。
一たび網をおろしなば、數萬の富も得らるべし。

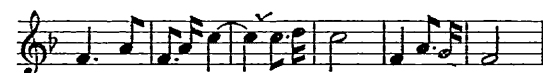
寶つきせぬ海原に、

版圖をひろめや。いざ、民よ。」

騎馬旅行



(一) コエ ター ル リ ガ ウー マ テ ナ レ
(二) ひ は しー き や ま ちー も は て な



シ ヲ ガ ム チー セン リー ノ リ ヨ コー
き の は ら もー ひ づ めー に か け づー

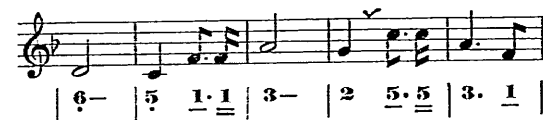


モ オ モ ヘ バ ヤ スー シー イ ザ イー
く わ が た び た のー しー い ざ いー



ザ ス ス マー ン ヤ マ コ エ テー イ ザ
ざ す す まー ん さ と す ぎ てー い ざ

騎馬旅行 (つづき)



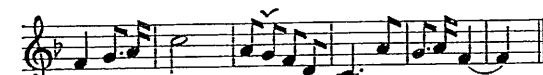
イー ザ ス ス マー ン カ ハ チ ヲ
いー ざ す す まー ん は し な わ



タ リ テー ハ ナ アー リ ツ キ アー
た り てー わ が うー ま た て つー



ル コ ソ ン ノ ユ フー ベー イ プ コー
つ み かへ る あ なー たー し ら くー



ニ ツ ナ がー ン ク リ ガ ノ ヲ ガ コ マー
も づ う べー の や ど な ぞ へ だ つ るー

騎馬旅行

(一) 肥^こえたるわが馬^{うま}手^てなれしわが鞭^{むち}。

千里^{せんり}の旅^{りょ}行^こもおもへばやすし。

いざ、いざ、すゝまん、山^{やま}こえて。

いざ、いざ、進^{すす}まん、河^{かは}を渡^{わた}りて。

花^{はな}あり月^{つき}ある孤^こ村^{そん}の夕^{ゆふべ}、

いづこに繋^{つな}がん栗^{くり}毛^げのわが駒^{こま}。」

(第八集)

(第八集)

(二) けはしき山^{やま}路^ぢも、はてなき野^の原^{はら}も

蹄^{ひづめ}にかけ行^ゆくわが旅^{たび}たのし。

いざ、いざ、すゝまん、里^{さと}すぎて。

いざ、いざ、進^{すす}まん、橋^{はし}を渡^{わた}りて。

わが馬^{うま}立^たてつゝ見^みかへるあなた、

白^{しろ}雲^{くも}ゆうべの宿^{やど}をぞへだつる。」

豊年



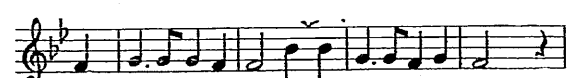
| 5.6 | 5-3 5.6 | 5-3 1̇ | 1̇.7 7 6 6 5 | 5-0 |

(一) タノ シーヤツ カノイ ネノホーナー ミー
(二) うれしーやこと しーのあきのみーのーリー



| 5.6 | 5-3 5.6 | 5-3 3̇ | 2̇.1̇ 7 1̇ 2̇ | 1̇-0 |

アカ ラーミミチ ターヨ モノナダーニー
はや かーりをさめぬた みのいへーにー



| 5 | 6.6 6 5 | 5-1̇ 1̇ | 6.6 5 6 | 5-0 |

チ ゴモチト メーモ コ エタデーデー
う ばもおきな-もう ちむれーてー



| 5.6 | 5-3 5.6 | 5-3 3̇ | 2̇.1̇ 7 1̇ 2̇ | 1̇-0 ||

ユタ ケーキトー シーヤ イ ハー フラー ン
めでた-きみー よーや う た-ふら-ん-

豊年

(一)

樂しや。八束の稲の穂波
あからみ満ちたり、四方の小田に。
乳兒も少女も聲たてて、

(二)

うれしや。今年の秋のみのり
はや蒔りをさめぬ民の家に。
媼も翁もうちむれて、
めでたき御代やうたふらん。」

祝へわが君を

3-2- | 1-0 | 5 5 6 5 | 3-0- | 1 1 3 3 |
 (-) イーハー へー リガキミ ナー メケミノ
 (二) いはー へー わがくに なー みづほの

2.3 1 1 | 6 6 5 5 | 4.5 3- | 2 2 3 2 | 1.2 7 5 |
 シキナミ ヤシマニ アフ レー アマネキ ハルカセ
 おしれは のもせに みちてーしるがれ こーがれ

5. 6 7 1 7 | 6 7 6 5- | 5. 1 3- | 4. 3 2- |
 ク サ キ モー ナ ビー クー イ ハ へー イ ハ へー
 は な さ きー さ かー ゆー い は へー い は へー

3 3 1 6 5 | 5- 0 | 1.2 3 2 | 1- 0 ||
 ク ニ ノ ター メー リガキミ ナー
 き ゐ の たー めー わがくに なー

祝へわが君を

(一) 祝へわが君を。

恵の重波、八洲にあふれ、
 普き春風草木もなびく。

いはへ。いはへ。國のため、わが君を。

(二) いはへ、わが國を。

瑞穂のおしれは野もせにみちて、
 しる金、黄金、花咲き榮ゆ。
 いはへ。いはへ。君のため、わが國を。

秋 草



3 | 6. 1 7 6 | 3 7 0 2 | 1. 7 6 7 |
 (一) サ キ ノ コ リ タ ル ア サ が ホー
 (二) あ や に し き お る は ぎ が ほー
 (三) タ レ マ ネ ク ラ ン ハ ナ ス スー



3 0 3 | 3 4 5. 6 | 5 4 2 0 2 |
 ヤ イ ノ チ ト タ ノ ー ム ツ
 ナ た ま ー も い ろ な る つ
 キ カ セ ー モ フ カ ヌ ニ ツ



1 2 3. 4 | 3 2 7 3 | 3. 2 1 7 3 | 6 0 ||
 ユーモ ア サ ギ ノ ア サ がー ホー ヤ
 ー ゴ こ ぼ る る は ぎ がー はー な
 ユーゾ ミ ダ ル ル ハ ナ スー スー キ

秋 草

(一) さき残りたるあさがほや。

命とたのむ露も浅茅のあさがほや。」

(二) 綾錦織る萩が花。

玉藻色なる露ぞこぼるゝはぎがはな。」

(三) 誰れ招くらん花すゝき。

風も吹かぬに、露ぞみだるゝ花すゝき。」

雁



| 1 3 | 5̣. 6̣ 5̣. 4̣ | 3̣. 4̣ 5̣ 3̣ 3̣ | 2̣. 3̣ 4̣. 3̣ | 2- |

(一) トーモダチツレーテリータルカリノー
(二) あーとなるかりーはそらにぞみゆるー



| 1 3 | 5̣. 6̣ 5̣. 4̣ | 3̣. 4̣ 5̣ 3̣ | 2̣. 5̣ 5̣ 1̣. 4̣ | 5- |

コーエコソヒビーケカタタノウラニー
さーきなるかりーはうらにぞおるるー



| 5 | 5̣. 3̣ 6̣. 5̣ | 5̣. 4̣ 3̣ 3̣ | 4̣. 4̣ 2̣ 5̣. 4̣ | 3- |

イザツガトモーモフネコギイデテー
おくれすきたーれやよわがともよー



| 1 3 | 5̣. 4̣ 5̣ 3̣ | 6̣. 5̣ 6̣ 1̣ | 5̣ 5̣ 3̣ 4̣. 2̣ | 1- |

ウータゴエタテーヨコヒノツキニー
のぼれるつきーははやあのそらにー

雁

(一)

友だちつれて、渡る雁の
聲こそひびけ、堅田の浦に。

いざ、わが友も舟こぎいでて、

歌ごゑたてよ、今宵の月に。」

(二)

あとなる雁は空にぞみゆる。

さきなる雁は浦にぞおる。

おくれず來れやよ、わが友よ。

のぼれる月は、はやあの空に。」

(一) ながめは枯れぬ大野原。
 冬のけしきのおもしろや。
 置く霜八重に花さきて、
 けさは寒さの盛かな。

(二) 百草千草冬枯れて、
 霜の花野となりけり。
 見たし遠くうち晴れて、
 知らぬ小鳥の群れて飛ぶ。

枯野

枯野



(一) ナーゲーメーハーカレヌオホノハラ
 (二) もーもーぐーさーちぐさふゆがれて

フユノケシキノオモシロヤ
 しものほなのとなりにけり

オークシーモーヤヘニハナサキテ
 みわーたーしーとほくうちほれて

ケサハサムサノサカリカナ
 シラネことりのむれてとぶ

母の思



母の思

(一) ハハノオモヒハソラニミチエー
(二) ははのなきけのなでしこー

カヘモシラズハテモナシ
ゆなわすれそめぐみなばい

キノカツラチタナリテゾーイ
へなうつすもそだてぐさーは

ヘノカーゼチバフカセツルア
たなきーるさへなしへぐさーし

フーダーアフーダーハハノミイサチ
たーへーしたーへーははのなきけな

(第八集)

(第八集)

母の思

- (一) 母の思は空にみち、行方もしらず、はてもなし。
月の桂を手折りてぞ、家の風をば吹かせつる。
仰げあふげ、母のみいさを。
- (二) はのなきけの撫子よ。つゆな忘れを恵をば。
家を選すも育ぐさ。機をきるさへ教ぐさ。
慕へ。したへ、母の情を。

埴生の宿



| 1 | 3. 4 4. 5 | 5-3 3 | 4. 3 4 2 | 3-0 |

(一) ハ ニ フ ノ ヤ ド モ リ ガ ヤー ドー
(二) ふ み よ む ま ど も わ が まー どー



| 1 | 3. 4 4. 5 | 5-3 5 | 4. 3 4 2 | 1-0 |

タ マー ノ ヨ ソー ヒ ウ ラー ヤ マ シー
る リー の ゆ かー も う らー や ま じー



| 5 | 1. 7 6. 5 | 5-3 5 | 4. 3 4 2 | 3-0 |

ノ ドー ガ ナ リー ヤ ハ ルー ノ ツ ラー
き よー ら な リー や あ きー の よ 1ー

埴生の宿 (つづき)



| 5 | 1. 7 6. 5 | 5-3 5 | 5-4 2 | 1-0 |

ハ ナー ハ ア ルー シ ト リー ハ ト モー
つ きー 1 あ るー じ む しー 1 と しー



| 5- 0 | 4- 2- | 1- 2- | 3- 0 |

オー リー ガー ヤー ドー ヨー
おー わー がー まー どー よー



| 5 | 1. 7 6. 5 | 5-3 5 | 5 6 4 2 | 1-0 ||

タ ノー シ ト モー タ ノー モ シ ヤー
た のー し と もー た のー も し ヤー

埴生の宿

(一) 埴生の宿もわが宿。玉のよそひ羨まじ。

のどかなりや、春の空。花はあると、鳥は友。

オー、わが宿よ。

たのしとも、たのもしや。」

(二) 書讀む窓もわが窓。瑠璃の床も羨まじ。

きよらなりや、秋の夜。月はあるじ、蟲は友。

オー、わが窓よ。

たのしとも、たのもしや。」

奈良の都

(一) ならの都のそのむかし、みやび盡して、

宮人の遊びましけん龍田川原のもみぢ葉、

龍田川原のもみぢ葉、今にもほふ、千入の色に。

のころかたみは千代もくちせず、

今か今かと君を待つらん、その紅葉。」

(二) ふるき都のそのむかし、櫻かざして、

大君の遊びましけんしがの花園花さき、

しがの花園花さき、今にもほふ、色香をそへて。

みめるすがたは千代もかはらず、

今や今やと行幸まつらん、その花は。」

奈良の都



1 | 1 1 1 2 3 | 5 6 5. | 1 1 2 3 | 2. 2 |

(一) ナ ラ ノ ミーヤ コーノ ソ ノ ム カ シー

(二) ふ る き みーや こーの その む が しー



1 | 1 1 1 2 3 | 5 6 5. | 2 2 2 3 2 | 1. 1 |

ミ ヤ ビ ツーグ シーテ ミヤビトー ノー

さ くら かーざ しーて おーほ き み のー



5 | 6 6 6 1 | 5. 5 3 | 2 2 2 1 2 | 3 4 5 |

ア ソ ビ マ シ ケ ン タ ツ タ ガーハ ラーノ

あ そ び ま し け ん し が の はーな ぞーの

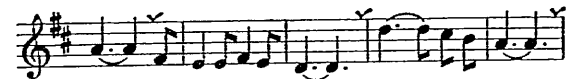


5 | 6. 1. | 5. 5 3 | 2 2 2 1 2 | 3. 1 5 | 6. 1. |

モ ミ ギ バー タ ツ タ ガーハ ラ ノ モ ミ ギ

は な さ きーし が の はーな ぞ の は な さ

奈良の都 (つづき)



5. 5 3 | 2 2 3 2 | 1. 1. | 1. 1 7 6 | 5. 5. |

バーイ マモニホ フー チーシホ ノー

きーい まもにほ ふー いーろか なー



5. 2 1 3 4 | 5. 5 3 | 1 1 1 2 3 | 5 6 5 |

イーロー ニーノ コルカータ ミーハ

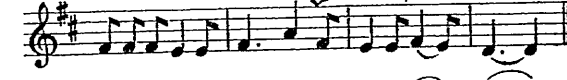
そーへー てーん めるすーが たーは



5 | 6 6 6 1 | 5. 5 3 | 1 1 1 2 3 | 5 6 5. |

チ ヨ モ ク チ セ ズ イ マ カ イーマ カート

ち よ も か は ら す い ま や いーま やーと



3 3 3 2 2 | 3. 5 3 | 2 2 3 2 | 1. 1 ||

キ ミ チ マ ツ マ ン ソ ノ モ ミー ギー

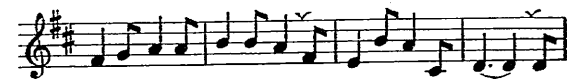
み ゆ き ま つ ら ん そ の は なー はー

仰げば尊し



3 | 3 4 5 5 | 6 6 5 3 | 2 3 4 6 | 5. 5 3 |

(一) ア フゲ バタ フト シリ ガ シノオ シー チ
(二) た が ひに む つ び し ひ ご ろ の お ん ー わ
(三) ア サ ユ フ ナ レ ニ シ マ ナ ビ ノ マ ド ー ホ



3 4 5 5 | 6 6 5 3 | 2 6 5 7 | 1. 1 1 |

シ ヘ ノ ニ ハ ニ モ ハ ヤ イ ク ト セ ー ま
か る ろ の ら に も や よ わ す る な ー み
タ ル ノ ト モ シ ビ ツ ム シ ラ ユ キ ー ヲ



6 6 4 6 | 5 3 5 5 | 6 1 7 6 | 5. 5 4 |

モ ヘ バ イ ト ト シ コ ノ ト シ ツ キ ー イ
な た て な な あ げ や よ ほ げ め よ ー い
カ ル ル マ ズ ナ キ ユ ク ト シ ツ キ ー イ



3 4 5 1 | 1 6 6 4 | 2 4 3 2 | 1. 1 |

マ コ ソ ヲ カ レ メ イ ザ サ ラ ー バ ー
ま こ そ わ か れ め い ザ さ ら ー ば ー
マ コ ソ カ レ メ イ ザ サ ラ ー バ ー

仰げば尊し

(一) 仰げば尊し、わが師の恩。教の庭にも、はや幾年。

おもへばいと疾し、この歲月。

今こそわかれめ、いざ、さらば。

(二) 互に睦びし日頃の恩。別る、後にも、やよ、忘るな。

身をたて、名をあげ、やよ、勵めよ。

今こそわかれめ、いざ、さらば。

(三) 朝夕なれにし學の窓、螢のともしび、積む白雪、

わするゝまどなき、ゆく歲月。

今こそわかれめ、いざ、さらば。

薔 薇 の 花



(一) アメ ノ シ ブー ク ニ ウー チー ヌ レー
(二) の ほ る あ さー ひ に かー がー や きー
テー ニ ホ ヒ イ テー タ ル バー
てー つ ほ み ひ らー げ し ばー
ラー ノ ハー ナー ア ナ ウ ツ クー
らー の はー なー あ な う つ くー
シー ア ナ ナ ツー カー シー ナ リ
しー あ な な つー かー しー か め
テ ト モー ニ ヤ オー クー ラ マー シー
に ひ とー え だ きー しー て みー んー

薔 薇 の 花

(一) 雨の雫にうちぬれて、

にほひ出でたるばらの花

あな、美し。あな、なつかし。

折りて、友にや贈らまし。

(二) 昇る朝日にかがやきて、

蒼ひらけしばらの花

あな、美し。あな、なつかし。

瓶に一枝さして見ん。

亡友

亡友

(一) イトグコユキシハガトモ
あともはかなし。亡き友。さびしやな、この春。

(二) ツモコニユマキノシバソハナキガトミモテモト
いとあともはかなし。ユマキノシバソハナキガトミモテモト

月見るたびに、哀しむ思。

明日より、誰れとまた、
書よむ窓の花をもめでん。

亡友

(一) いづこ行きし、わが友、おもかげを残して、
共に學び勵みて、睦びしは、ただ夢。

知らずや、いかにわが

(二) あはれ、かなし。亡き友。さびしやな、この春。
鳥はまたも來鳴けど、きゝし人今なし。

明日より、誰れとまた、
書よむ窓の花をもめでん。

七 草

(一) 姿^{すがた}やさしき秋萩^{あきはぎ}すゝき。

色^{いろ}香^かなつかし撫子^{なでしこ}桔梗^{ききょう}。

庭^{には}もせにみちて、おきたる露^{つゆ}も

錦^{にしき}にかがやくそのうつくしき。

(二) たがぬぎおきしその藤袴^{ふちばかま}。

露^{つゆ}まで黄色^{きいろ}にさく女郎花^{をみなへし}。

ひろがる葉^はかげにさく葛^{くず}の花^{はな}。
かぞへあぐれば、これぞ七草^{ななくさ}。」

七 草

七 草

(一) スー ガ タ ヤー サー シー キ ア キー ハ ギー
たー が め ぎー おー きー し そ のー ふ ちー

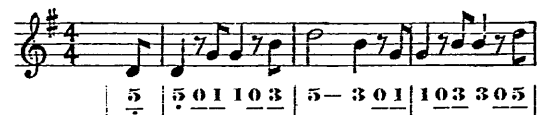
(二) ス ス キ イー ロ カ ナー ツー カー シ ナ
ば か ま つー ゆ ま でー きー い る に き

テ シ コ キ キョーニ ハ モ セ ニ ミー チ テ ナ
く な み な へー し ひ ろ が る は かー げ に き

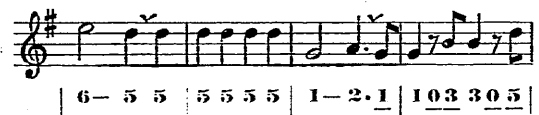
キ ダ ル ツ ユー モ ニー シ キ ニー カー
く く す の はー な かー ぞ へ あー ぐー

か ヤ ク ソ ノ サ ツ ク シー サ
れー ば こ れ ぞ な な くー さ

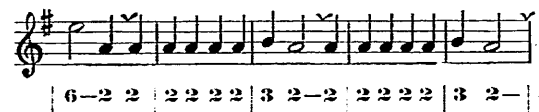
鏡が浦驟雨



(一) ク モ ヨセ キ ター ルカモ ヨセ キ
 (二) く も ぼれ ゆ きー めくも ぼれ ゆ



ター ル イ ヨガダケ ヨーリク モ ヨセ キ
 きーめ あ まぎのみ れーに く も ぼれ ゆ



ター ル マ ドニムキ タツア ノシロキ マ モー
 きーめおほ そらいで たるーあ のつきか げ ばー



オ キアヒチ カーキフ タツノシ マー モー
 や ままたを かーのこ だちのし げみ なー

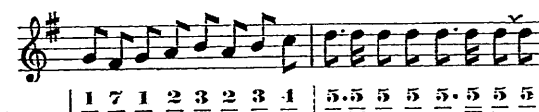
鏡が浦驟雨 (つづき)



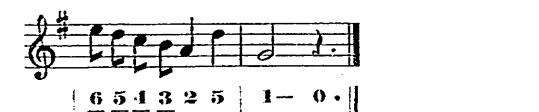
アレアレアレアレ タチマチニ ナ
 あれあれあれあれ あらばして す



ラクノソコーニシ ズメルゴトークカ
 いてんわ ちてな みまにたまらるけ



ゲカキケサレテナ ルカミハゲシグユ
 しきをみせつつか がみがうらにもう



フダチキタレ リー
 つーリてすす しー

鏡が浦驟雨

(一) 雲よせきたる。雲よせきたる。

伊豫がだけより雲よせきたる。

窓にむき立つあの城山も、

沖合ちかき二つの島も、

あれ、あれ、あれ、あれ、たちまちに

奈落の底にしづめるごとく、

かげかきけされて、

鳴神はげしく、夕立きたれり。」

(二) 雲はれゆきぬ。雲はれゆきぬ。

天城のみねに雲はれゆきぬ。

大空出でたるあの月かげは、

山また岡の木立の繁みを、

あれ、あれ、あれ、あれ、あらはして、

水天わからて、波間に玉ちる

けしきを見せつゝ、

鏡が浦にもうつりて、すすし。」

7513x

教育唱歌全八冊

明治二十九年一月二日第一集	印刷
明治二十九年一月十日第一集	發行
明治二十九年五月十五日第二集	印刷
明治二十九年五月廿六日第二集	發行
明治二十九年八月一日第一集訂正再版	發行
明治二十九年十二月廿五日第二集訂正再版	發行
明治三十年十二月十五日第二集訂正三版	發行
明治三十年十二月廿五日第一集訂正三版	發行
明治三十一年七月五日第二集訂正四版	發行
明治三十八年八月十四日修正五版	印刷
明治三十八年八月十七日修正五版	發行

定價各冊金拾五錢

著作權所有☆不許拔萃

編纂者 教育音樂講習會

發行所 西野虎吉
東京市小石川區小日向水道町七十三番地

印刷者 野村宗十郎
東京市京橋區樂地三丁目十五番地

發行所 東京開成館
東京市小石川區小日向水道町七十三番地
電話特番町三五五番

發行所 大阪市心齋橋通北久寶寺町角
大阪開成館 三木佐助

發行所 東京市日本橋區通三丁目
六合館 林平次郎

